

金力 (きんりょく)



収穫目安 (定植後)
夏まき: 60~63日

特徴

- 夏播き年内収穫に適した品種。
- 球形はやや腰高の偏平形。色は鮮緑色で、結球表面には光沢がでる。定植後 60~63 日が収穫目安の早生種となり、球重は 1.3~1.5kg が収穫目安。「柳生」よりはやや早生種となる。
- 葉質は非常に柔らかい。水分・甘みを適度に有するため食味は良好。
- 早生種で大玉になりながら、比較的締り良く結球する。

栽培適期表

地域	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
高冷地				●	×			■					
冷涼地						●	×		■				
一般地								●	×		■		
暖地									●	×		■	

記号説明 ●:播種 ×:定植 —:栽培期間 ■:収穫期間

栽培方法

<栽培管理>

夏播き年内収穫に適した早生品種です。比較的外葉が大葉となる品種ですが、草勢が極端に強い品種ではありません。外葉形成を抑制する目的で肥料を控えて栽培すると、小球になる可能性があるため、注意が必要です。肥培管理は一般的な秋冬どりキャベツと同様です。外葉が大きいので株間は 35cm~40cm 程度と、やや広めて栽培を行ってください。

定植時には生育の弱い苗の定植を避けるようにします。初期に生育差がついてしまうと、(外葉が大きい)横の株に負けずまい収穫に至らない可能性があります。

厳寒期にはアントシアニンの発生が認められるため、収穫時期の設定に注意して下さい(青果出荷を目的とする場合一般地基準で、11 月末までの収穫を推奨)。

また、本品種は葉質が柔らかく、大玉になりやすいため、チッソ過多の栽培条件下では微量元素欠乏を起こしやすい品種となります。リン酸成分



微量元素欠乏の例

や微量元素をしっかりと施し、肥料バランスを整えるように努めてください。極端なチッソ過多条件下ではべと病の発生を助長する可能性があります(特に高温期の収穫作型において)。



べと病の例

<栽培方法>

株間は 35~40cm、条間は 65cm の 1 条定植で、栽植本数は 4,400~4,600 株/10a を推奨。肥培管理は一般的な早生種と同程度かやや少なめとし、総施肥量はチッソ換算で 13~15kg/10a を標準とします。元肥メインとし、元肥:追肥=2:1 程度のバランスで管理します。葉質が柔らかいため、収穫期には肥効が落ち着く管理を推奨します。また、適期収穫に努めてください。

<ご注意>

上記の数値は弊社圃場内での実例であり、各地域によって最適な条件へ変更していただくようお願いいたします。